

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和4年6月)

～物価上昇による悪影響の拡大で、現状判断は4か月ぶりの低下～

- 景気ウォッチャー調査・6月調査の近畿地域の結果は、現状判断が51.0と前月比で4か月ぶりの低下となった。先行き判断も45.0と5か月ぶりの低下となっている。
- 足元の景気については、飲食や宿泊、百貨店などで客足の一定の回復が進んだものの、物価の上昇や部品不足による悪影響が幅広い業種で広がっている。物価の上昇が消費者心理の低下につながっているほか、仕入コストの上昇分が販売価格に転嫁できず、収益の悪化が進んでいるといった声は多い。
- 特に、エネルギー相場などの高騰による企業のコスト上昇が、ウクライナ危機や円安によって深刻化。さらに半導体不足をはじめとする、各種部品の不足にもつながり、生産の減少や遅延などを招いている。
- 先行きについても、飲食や旅行関連を中心とした回復の期待はある一方、円安やウクライナ危機が続くなか、物価の上昇に対する警戒は引き続き強い。消費マインドの低下による客足の減少懸念に加え、今後も価格転嫁の困難な状況が予想される中、企業収益の悪化を警戒する声が多い。
- 加えて、新型コロナの感染状況もここへきて拡大に転じている。東京や大阪を中心に感染第7波の発生が指摘されるなか、G・O・T・O・トラベルの再開延期の可能性を含め、今後のコロナ対応に対する懸念は高まっている。
- その一方、インバウンドの再入国が始まったことで、先行きに期待する声は少なくない。新型コロナの感染拡大でやや不透明感が出てきたものの、国内消費の回復が遅れる中、関連業界の需要拡大に対する期待は根強い。

「コスト・物価上昇」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	良くなっている	百貨店(マネージャー)	・物価は上昇しているが、コロナ禍が一定の落ち着きをみせるなか、オフィス勤務などの人流が活発になっている。気温の上昇もあり、国内の中間層向けの夏物ファッション商材が好調に動いている。婦人用サンダルやパラソル、紳士雑貨などは3年ぶりの活況であり、食品も気軽に食べられる総菜やベーカリーが好調である。また、富裕層については、時計や絵画、宝飾品、特選品が好調を維持している。
	やや良くなっている	一般小売店[野菜](店長)	・飲食関連の客が多いが、かなり戻ってきている。ただし、注文が入ってくるようになったのは良いが、個人客の買物には、物価の上昇による影響が出ている。
		百貨店(企画担当)	・高額品の動きが、引き続き好調である。春以降、特選ブリックの値上げが増えており、値上げ前の駆け込み需要が目立つ。一方、インバウンドは6月10日に入国制限が緩和されたが、今のところは目立った変化がみられない。
		百貨店(サービス担当)	・今月の実績も前年比で約7%増加となり、特に高級海外ブランドの特選洋品が好調に推移している。一方、食料品は原材料の値上げにより、全体的に売上が鈍化するなど苦戦している。
		百貨店(特選品担当)	・物価の上昇による影響が懸念されるが、富裕層の高額品購入の動きは好調が続いている。一方、インバウンドの入国規制が緩和されたが、目立った動きはない。
		百貨店(マネージャー)	・コロナ禍の状況でも好調であった高額品に加え、雑貨などの低価格品にも動きが始めている。低迷していたカテゴリーの商材が回復傾向にあるため、販売量の増加につながっている。
		乗用車販売店(経営者)	・コロナ禍が収束に向かっており、経済活動が新型コロナウイルス発生前の状況に戻つつある。物価は上昇しているが、客の消費意欲の旺盛さを感じられる。
		その他専門店[ドラッグストア](店員)	・新型コロナウイルスの新規感染者数は落ち着きをみせ、物価の上昇が徐々に進むなかで、まとめ買いの傾向がみられる。特にクーポンなどの配信状況は変わっていないが、来客数は増加気味である。
住宅販売会社(従業員)	・分譲マンションは総じて好調であり、デベロッパー各社とも在庫が減っている。その一方、開発用地の情報は減っており、デベロッパーの取得競争の激化による土地価格の高騰が続いている。		

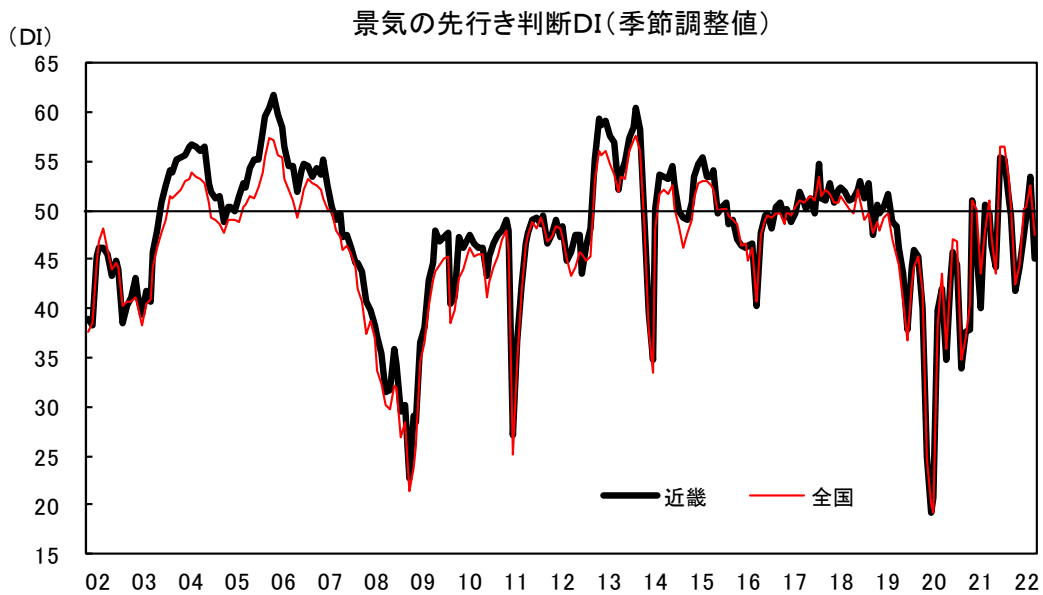
家計動向関連	変わらない	百貨店（販促担当）	・コロナ禍による自粛ムードはほとんど感じられず、一部に強い反応はあるものの、ほぼ通常の動きに戻っている。ただし、価格の上昇による心理面への影響が出始めており、特に生鮮食品で販売量が減少が見受けられる。今年は空梅雨の影響でレイングッズは不調であるが、UV関連は堅調に動いている。
		百貨店（宣伝担当）	・円安や物価上昇の影響で、消費者の節約志向がますます強まっているように感じる。ハイブランドとファストファッションの需要の二極化がより一層進み、百貨店の中心価格帯の動きが鈍い。
		百貨店（販売推進担当）	・家族連れでの来店が増えているが、年配客の来店は余り回復していない。物価上昇の影響もあるのか、買上率も下がりつつある。
		スーパー（店長）	・コロナ禍の影響は落ち着いてきたが、値上げを意識した買物に変わってきている。
		乗用車販売店（営業担当）	・来客数は減少しており、販売数も横ばいである。価格交渉の動きが増えている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・原油価格や物価の上昇による消費の減少を予想していたが、週末を中心とした行動制限の解除により、これまで抑制されていたレジャー需要が増えている。
		一般レストラン（経営者）	・物価の上昇で販売価格を値上げしたが、売上や来客数には大きな変化がない。ただし、遅い時間帯の来客数の減少で、座席の回転数が落ちているほか、仕入価格の上昇で利益率が下がっている。
	やや悪くなっている	百貨店（売場マネージャー）	・今年の3月から来客数は改善傾向にあったが、5月のゴールデンウィークを過ぎた頃から、再び減少傾向となった。主な要因としては、世界情勢の不安定化や原油、原料価格の高騰などで、消費者が生活防衛を強めていることが挙げられる。来客数の推移は、3月の前年比が16.1%の増加で、4月が0.2%の減少、5月が6.1%の増加で、6月が1.1%の増加となっている。
		百貨店（営業推進担当）	・ウクライナ危機による納期の遅れや、原材料価格の高騰による値上げで、ボリューム層の購入が減っている。
		スーパー（経営者）	・値上げの影響が確実に出ており、買上点数が減っている。また、予想外の梅雨明けと猛暑の到来で、月後半は来客数にも影響が出てきた。生鮮品の小分け販売など、少しでも価格を安くする工夫をしているが、売上の減少傾向が続くようである。
		スーパー（店長）	・食品を中心に価格が大きく上昇し、買上点数が落ちている。
		スーパー（店員）	・全体的に価格が少し上がっている影響で、果物類が余り売れなくなっている。広告の特価品ぐらいいしか売れていない。
		スーパー（販売促進担当）	・来客数は前年並みであるが、客単価の低下で売上の減少につながっている。ウクライナ危機もあって商品の値上げが続いていることもあり、買い控え傾向が始まっている。
		スーパー（社員）	・メーカーや取引先による商品価格の改定が続き、商品単価の上昇が続いている。一方、客の買上点数は前年比で大きく減少したため、客単価は下がっている。
		コンビニ（店員）	・多くの商品の価格が値上げとなり、消費が抑え気味となっている。
		コンビニ（店員）	・物価の上昇で需要が減り、弁当や焼き立てパンの廃棄が目立つ。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・コロナ禍は収まりつつあるが、円安による物価の上昇が家庭を直撃している。この状態がいつまで続くのか心配である。
		その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・物価の上昇の影響が大きい。秋に向けても値上げの情報しかないほか、今夏は電力不足や水不足で消費が更に落ち込む。
		一般レストラン（経営者）	・物価の上昇や、府民割の影響で来客数が減少したため、売上が少ない。近隣の商店街の店舗やスナックなどからは、客が来ないという声が上がっている。
		その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・6月に入ってから、5月のような力強い回復がみられない。急激な円安や各種の値上げが、消費マインドを冷やしている。
住宅販売会社（経営者）	・建築資材や設備関係の仕入価格が、かなり上昇している。		
住宅販売会社（総務担当）	・建築資材価格の高騰に伴い、住宅価格が上昇傾向にある。		
その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・物価の上昇で消費が減少している。		
その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・不動産価格の高騰は続いており、検討客の動きは鈍くなっている。また、住宅の建設現場での労働力不足や資材の調達不足により、施工遅れの問題も顕在化している。		
悪くなっている	住関連専門店（店長）	・仕入原価の高騰や止まらない円安で、販売価格を上げて追いつかず、利益率は悪化の一途をたどっている。	
企業動向関連	変わらない	食料品製造業（従業員）	・原材料価格や資材価格の上昇が始まっているが、製品価格に転嫁できていない。値上げが進んでいないため、まだ製品は少し動いている。
		建設業（経営者）	・建設資材価格の高騰や、納期の遅延などが続いている。金額やしゅん工日が設備投資計画とかい離しており、新築物件の計画凍結や延期もある。改修物件は部分的な取りやめで、何とか進む予定であるが、今後どうなるかは不透明である。
	なや悪くなっている	繊維工業（総務担当）	・原材料や加工代の値上げが、製品の原価を押し上げている。ホテル代などの経費の増加も利益を圧迫しており、良い材料が見当たらない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・材料価格の値上がりや、一部製品の不足により、生産に支障が出始めている。明らかな発注量の減少も目に付く。

企業動向関連	な や や 悪 く な っ て い る	一般機械器具製造業（設計担当）	・様々な商品の値上げにより、家計のひっ迫が徐々に進んでいる。
		金融業（営業担当）	・材料価格の高騰や円安の進行により、物価の上昇が止まらない。また、給料格差の拡大に歯止めが掛からない状況である。
	悪 く な っ て い る	輸送業（経営者）	・全ての必要経費が増加している。収入は増えない一方、燃料価格や税金などの経費だけが増加し、採算が合わない。
		その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・物価が上昇している。
雇用関連	変 わ ら な い	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・コロナ禍はある程度落ち着いてきたが、ロシアのウクライナ侵攻や円安による原材料価格の高騰など、不安要素が多く、景気が上向く動きは余り感じられない。
	な や や 悪 く な っ て い る	民間職業紹介機関（支社長）	・中途採用市場では、まだ景気の悪化は顕著ではない。ただし、身の回りの物価上昇や海外の動向を踏まえると、今後はますます厳しくなっていく。

「インバウンド」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	良 く な る	百貨店（マネージャー）	・人流が活発となるなか、国内消費は旅行やビジネス、遊び、趣味関連の購買が活発になる。全体的には生鮮食品以外は好調を維持すると予想されるほか、インバウンド需要もまだ緩やかであるものの、今後は復活が期待できる。
		都市型ホテル（管理担当）	・外国人観光客の入国が再開されたため、今後のインバウンド需要に期待できそうである。
	や や 良 く な る	一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・海外からの入国者数が増加している。
		百貨店（サービス担当）	・来月からは、北海道の物産催事やサマーセール開催で来客数の増加が期待できるため、前年の実績は確保できそうである。また、海外からの観光客の規制緩和によるインバウンド効果の復活に期待している。
		百貨店（外商担当）	・インバウンドの入国緩和により、今後の売上増加が見込まれる。さらに、外商客を中心とした、富裕層の高額品の購入も続く。
		百貨店（特選担当）	・円安が進むなかで、今後はインバウンドの免税売上が予想以上に増えそうである。富裕層の消費も、価格の上昇による影響がさほど感じられないため、好調が続くと予想される。
		百貨店（マネージャー）	・国内外からの観光客の増加が期待できる。また、ウクライナ危機やコロナ禍のほか、上海のロックダウンによる影響が和らぎ、生産や物流の機能が回復に向かう。
		衣料品専門店（販売担当）	・円安などの影響で物価が上がれば、購入意欲がますます低下したと感じる。ただし、外国人観光客が旅行に来てくれれば、少しは上向いてくる。
		乗用車販売店（経営者）	・ウクライナ危機や中国のロックダウンによる影響は大きいと感じる。インバウンド需要も入国基準の緩和で活気が出てきた。参議院選挙の結果がどうなるかは不透明であるが、景気はコロナ禍の収束を見据えて回復が進むと予想される。
	その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・海外からの観光客がそろそろ入国してくるため、良くなる。	
	変 わ ら な い	百貨店（宣伝担当）	・入国制限の緩和で、インバウンド需要に多少期待しているが、秋冬商戦の中心素材となる革やカシミア、ウールの価格上昇の悪影響が懸念される。新型コロナウイルス発生前の水準への回復は、まだ先となりそうである。
		都市型ホテル（管理担当）	・インバウンド向けの規制緩和が限定的であるため、国内旅行の需要への対応が中心となるが、予約は間際化が進んでおり、単価も低下気味である。
	や や 悪 く な る	百貨店（マネージャー）	・夏休み期間中の国内観光客やインバウンドの来店は期待できるが、酷暑の影響で全体的な客足は鈍くなる。また、値上げが続くことで、中間層は財布のひもが固くなることが予想される。
	な 悪 く な る	スーパー（店長）	・原油価格の高騰に伴い、電気や燃料、食品、日用品に至るまで値上がりしており、消費は下向きとなっている。インバウンド需要もまだ限定的である。
雇用	や や 良 く な る	人材派遣会社（営業担当）	・観光業が活気を取り戻しつつある。円安により国内客の海外旅行は抑制されるが、インバウンドの観光需要は増えるため、景気全体への好影響を期待したい。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		20年						21年						22年												
		6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
現状判断	近畿	36.6	40.2	42.6	47.4	50.7	42.6	36.0	33.2	43.7	48.5	31.4	34.7	46.2	47.5	35.3	42.7	54.1	57.3	58.7	40.3	39.3	48.4	50.6	52.1	51.0
	(全国)	39.0	41.8	44.1	47.7	52.7	44.2	35.3	31.9	41.7	48.5	39.0	37.8	46.5	48.0	34.9	42.3	55.1	56.8	57.5	37.9	37.7	47.8	50.4	54.0	52.9
先行き判断	近畿	42.0	34.8	43.2	45.7	44.4	33.8	37.6	37.8	51.0	46.0	40.0	50.5	49.7	46.3	44.3	55.4	55.1	51.3	49.4	41.9	44.2	47.5	49.2	53.4	45.0
	(全国)	43.5	35.8	42.8	47.1	46.9	34.7	36.9	40.4	51.0	50.2	43.5	48.0	51.1	47.3	43.5	56.6	56.6	53.2	50.3	42.5	44.4	50.1	50.3	52.5	47.6

※季節調整値